

第 14 回研究会より

参加者 4 人

会場：雪の里情報館

日曜日でもあったためか、今回は参加者 4 名という少人数の中で行いました。今年度最後ということで、来年度の話なども雑談を交えながら行いました。今回は、高橋晋で、今年 2 月に小学校 6 年生で行った情報教育の授業をビデオカンファレンスしていただきました。現在、市の教育委員会に勤めておりますので、対象の児童への初めての授業でした。

意見として

田中さん：児童が言葉がつまってしどろもどろしているときに、待てることのできるか自分で悩んでいる。この授業では、待てていたのはどうしてか？

川田さん：最初の方では、児童達の言葉があまりでなかったが、授業の後半には、自分から挙手をして発言する場面がでてきた。きっと話したいことがでてきたのだろう。

笹原さん：児童の発言をちゃんと授業者は蓄積していて、次につないでいるのがよかった。課題や教材の深さを感じた。どのようにこの授業をデザインしていたのか。

上記のようなご意見とともに、各校の授業研究会や研究協議会のあり方などの意見を交わしました。

本当に拙い授業を見ていただき、ご意見をいただき大変参考になりました。

来年度は、自分の授業をできるだけ持ち合って意見を交し合う研究会にもしてみたいものです。

今年 1 年ありがとうございました。

授業カンファレンス

小学 6 年 『ネット社会で被害者や加害者にならないようにするには？ 』

T：「今日は特別に授業をさせてもらうことになりました。情報についてみなさんに、先週アンケートをとらせていただきましたけど、まずは自己紹介。私は高橋晋也と申します。今は、あの教育委員会にいますけど、その前までは中学校の先生をずっとやってきました。なので 45 分の授業というのは、ちょっと慣れてない。中学校は何分ですか？」



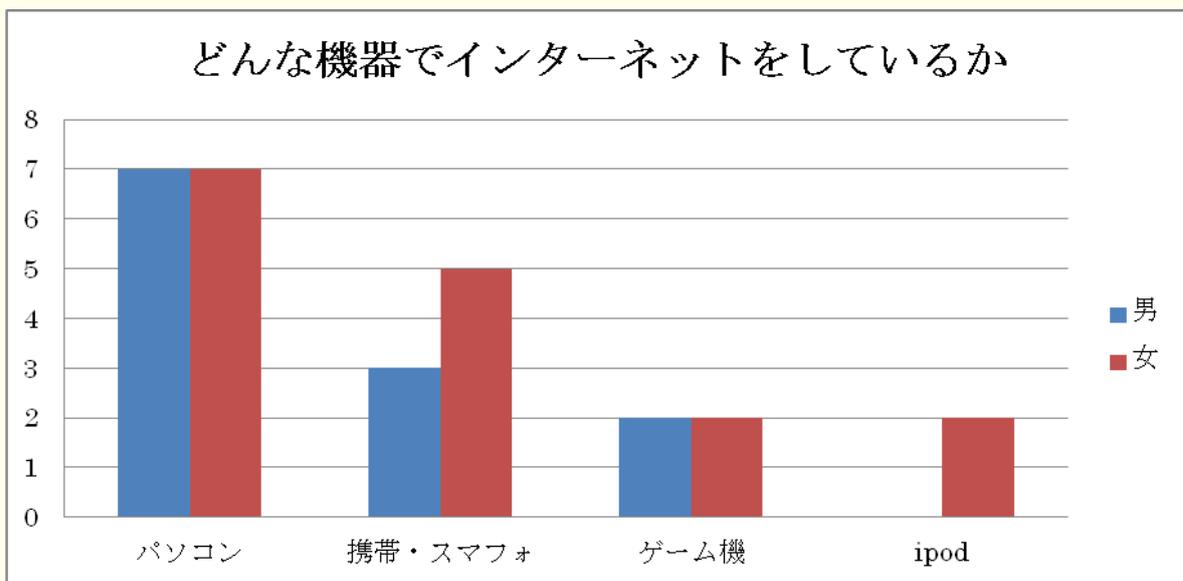
S : 「50分」

T : 「ね、来年はみんなは、中学生になるとは思いますけど、50分でやるので、自分が45分どうまく授業できるか不安ですけど、ただ、みんなの協力を得ながら授業を進めていきたいと
 思います。よろしくお願いします。(頭さげる)」

S : 「よろしくおねがいします。(拍手)」

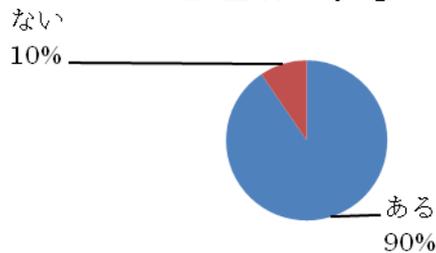
T : 「えとー、この45分間で、みんなとわたしと一緒に考えたいのは、こういうことなんです。(電子黒板に映し出す) 見えるかな。エーとね、インターネットやメールで被害者や加害者にならないようにするためにはどうしたらいいのか? いうのを一緒に考えてみたいと思います。ね、そこで、みんなに事前にアンケートを取りましたが、このクラスはどういう人たちの考え方、ね、の人たちでいっぱいいるかっていうの、ちょっと見て下さい。

(電子黒板にアンケートの集計グラフを映し出す)



学校以外で普段インターネットやメールをしている人、90%以上はインターネットやメールをとにかくなんらかしていますよという人が、このクラスのほとんどです。そして、わずか10%いかないくらいの方が、いや家ではそういうことは、インターネットやメールとかそういうことはしていませんという人も中にはいます。ね、この授業は、そういう人たちの集まりで、みんなと考えていくという授業になります。次に、どんな機械でインターネットやメールをしているかというアンケートは、こういうことでした。青は男子、女子は赤ね。

学校以外でネットをしたことがある？



パソコンというのは男女とも、パソコンでインターネットをしているという人が、まずすごく多かったです。それから女子の中には、携帯やスマホ、スマートフォンで、メールやインターネット私にはしているんだという人も多かったですね。男子は、女子も同じくらいなんですけども、ゲーム機で、インターネットやメールをしているんだという人もいました。中には女子には、ipod あの音楽聞く機械、それでダウンロードしたり、そういうことしてインターネットしてますよという人が多かったです。ね、いろんなインターネットでの活用しているんだということがわかりました。そこで、ここからみんなと考えていきたいことなんだけども、みんな小学生。小中学生でインターネットを利用することで、注意すべき点は、何だと思えますか？と聞きました。ちょっと表現がちがったかな？エーと、ネットやメールでトラブルに遭わないようにするにはどうしたらいいと思えますかということです。そしたら、特に女子なんかで一番多かったのは、こういう回答です。怪しいサイトには入らない。もしくは、怪しげなサイトには利用しない。という回答がこの一番左側のものです。ね、男子で多かったのは、有料お金を取られるサイトには入らない。ということに僕は気をつければトラブルには遭わないという考え方の人もいました。そこで、ちょっと考えてみますか。まずはひとつ、怪しいサイトというのを見極められるか。怪しいサイトは見きわめられないか。はい、怪しいサイトはだいたい私はわかる。見極められるという人？

S：頭かしげる児童。挙手0人

T：どっちかに手を上げてください。いや、怪しいサイトは見きわめられないと言う人

S：ほぼ全員挙手

T：お、100%。エーと、Hさん、どうして見極められませんか？

H：んと、サイトをみただけでは、ちょっとわからないというか、内容も怪しいサイトみたいに書いてないのかなと思って、怪しいサイトは見きわめられない方に手をあげました。

T：怪しいサイトはなかなか見きわめるのに難しいのではないかな。Kくん

K：住所や名前などの登録があった場合はわかるんですけど、そういうものが目立つ場所がない場合はあまりわからないので、わからないと思います。

T：面白いね、Kくんはかなり詳しいことを言ってくれたね。住所や名前を入力するような画面が出てきたら、ん、これはちょっと危険かなということがわかる。だけど、それすら、

わからないようなものであれば、なかなか僕は見極められないと思うというような意見なんだけど、Rくんはどうですか？

R：僕もKくんと同じで、住所とか書いていたらちょっと怪しいかなと思います。

T：住所を書いているとやっぱり怪しいと思う。ということは、RくんもKくんと同じで、そういう入力、自分を打ち込むようなことが要求されていたら怪しい。それ以外だと怪しくないという判断なのだろうか？

どうですか、Yくん？



Y：住所とか書く場合でも良い場合とかあるから、そっちの点でも、住所以外でも悪いところないとか、そういう点でも見極められないと思います。

T：Yくんは、ちょっと違う角度で言ってくれたね。住所や名前を入れても、別段、問題ないことだってあるじゃないか。ね、だからそれがあるからって、常に危ない怪しいサイトだって言えないんじゃないかっていう、新しい考え方だけど、どう思いますか、Nさん？

N：わたしも住所や名前が書かれているサイトで、よい場合と悪い場合があると思います

T：思いますか。じゃあKくんどう思いますか？

K：怪しくない場合があるというのは、まだそれが無いという可能性もあると思うので、まず小中学生の場合はそういうのはまず必要ないと思います。

T：ちょっと面白いね。Kくんの考えは、まず小中学生の中では、そういう入力するというのは必要ないんじゃないか。だからそれは良いか悪いかじゃなくて、必要じゃない。小中学生にとって必要じゃないから、そういうサイトには入らない。という考え方だけど、Yくん

Y：まだ・・・ちょっと・・・

T：ちょっとわかんない。今の意見があるという人いますか？

S：頭かしげたり、

T：どう？もうKくんの意見で100%そのとおり、ということで。

S：(一部) うなづく

T：うなづくしている人いるけど、YUさんどうですか？

YU：私もKくんの意見に賛成だと思います。

T：どういう風に？

YU：えーと、確かにパスワード、住所とかそういう個人情報を聞くときは怪しいけど、でも小中学生が使うときはあまりないんじゃないかなと思います。

T：なるほど、そういう風に入力を、入力をしてくださいというサイトが出てきたら、やっぱり小中学生にとっては必要じゃないんじゃないか。それも怪しいサイトじゃないかとい

うのが多分、今のところの全体的な話になっていると思うんですけど、だから、ここの怪しいサイトというのを入らない、そうすればトラブルにはなりにくいということがうなずけるのかなあーと思います。そこで今度ビデオを見てもらいます。3分くらいの短いビデオですから。ビデオを見て討論を続けていきましょう。

ビデオ：(架空請求)

：主人公のゆうたが、買ってもらった携帯で、ある日ゲームのプレゼントのメールを受け取る。母親からあやしいメールは気をつけるように注意されていたゆうたは、誘惑の負けずに、メールの受け取らないというボタンを押す。ところが、それ以降、不審メールがどんどん送られ、しまいには、5万円を請求されたという事例

T：とういうちょっと事例をみてもらいました。ちょっとコの字になってみんなと話し合いたいと思います。お願いします。

S：一斉にコの字隊形に



T：さて、どうだったでしょうか。みんなが言ったとおり、怪しげなサイトに入って、あのゆうたくん(ビデオの主人公)は、トラブルに遭ったんです。で、いろんな考えが出来ると思うんですけど、みんなに聞きたいのは、あのトラブルの責任は誰があるかということです。ゆうたくんが悪いんだ、ゆうたくんに責任がある。お母さんに責任がある。登場人物は2人しか、ま、友達も入れれば3人だけど、ね、ゆうたに責任がある、お母さんに責任がある、さ、どっちかに手を上げてね。はい、ゆうたに責任がある

S：え～

T：正直でいいよ。じゃあ、もう一度考えて。自分の考えを、あの言っておくけど、私の授業には当たり外れはありませんので、正解は何もありません。ただこの21人で、考えていることが正解だから、自信もってやってね。もう一回聞くよ、このトラブルは、ゆうたに責任があると言う人？

T：0でいいですか

「じゃあ」と言って、YUMI 挙手。Jくんが頭をかしげる

T：Jくんはどう？

J：「えー」とつぶやいて、悩んでいるよう

T: 微妙、微妙。じゃあ、親である、母親に責任があるという人。(多数が挙手。授業者としては意外な結果。じゅんは悩んだままあげない) じゃあ聞いていこう。お母さんのどういうところに問題があるんですか？

NI: 子どものどういう風に使っているのかとか、危ないサイトに言っていないのかとか、確認しなかったことが悪いのかな？って。



※友達の親との比較か

T: お母さんが、この人がどういう風に使っているのかちゃんと確認していないということがトラブルの大きな問題、責任がある。エーと、RUくん

RU: 僕は、おかあさんがゆうたくんに携帯を買ったって、買わないほうが良いと思います。

T: どうして？

RU: あの怪しいサイトとか、あの・・・

T: なるほど、RUくんは、さっきのNIさんの話とはちょっと根っここの部分で、お母さんが携帯を買ったことが悪い、携帯を買ったことが問題なんだという考え方。Jくはどうですか？

J: んとー、もともと、んとー買ったのは悪いんじゃないって・・・

T: RUくんの考えとはちょっと違うということね。

J: RUくんとはちょっと違うんだけど、もともと買った、買ってあげてはいいんだけど、メールとかは、メールとかは、できないように、できないように

T: 設定か？

J: うなづく

T: ありがとう。いまあのー、Jくんの考え方わかった？買ってあげてもいいんだけど、メールとかできないように設定しなかったことが問題なんじゃないか、ということなんだ。Uくんどうですか？

U: 僕は、携帯を買うのはいいんだけど、あの、お母さんは、電話するために買ったんだから、ゲームじゃなく、電話するためにだけに使った方がいいと思う

T: なるほど、Uくんは、お母さんは、電話の機能だけで使う事を約束とかそういう風に使った方がよかったんじゃないか。ちょっと今まで、お母さんに責任があるという、そういう話なんだけど、ごめんね、YUMIさん(ゆうたに責任があると挙手した唯一の1人)どうぞ。

YUMI: えーと、あのー、ゲームをしていた？というところは、私の考えでは、ゲームをす

るというのは、怖いんじゃないかなと思って、サイトとはちょっと違って、いろんな種類でゲームを選ぶことができるし、この中で、もし有料なもの？とかがあって、それを気づかないでやっていたとか、相手に情報を知られるとか、ゆうたくんがきちんと見ていなかったというのが、この原因につながっていたのかなと思いました。

T: すばらしいね。YUMIさんは、ゆうたくんの、その無警戒に有料かどうかわからないゲームにアクセスしている、それが一番の責任なんだ。ゆうたくんがやっぱり責任が重いんだ。Kくん。君なんかありそう。

K: お母さんが、携帯を渡すのがもう少し、自分で判断して責任とれるようになってからの年齢になってから渡した方がよかったと思う。

T: そうしたら具体的に何歳くらい

K: 高校生くらい

T: やっぱり Kくんは小中学生には持たさないほうが良いという考え方。RIさんはどうですか？

RI: わたしは、携帯を預けてもいいけど、さっきのインターネットとかメールとかできないKIDSタイプのものの方がいいと思います。ゲームにはちゃんと安心できる、Yahooとかの安全な、保障されているところでのみやったほうがいいと思います。それと、お母さんが、ちゃんとインターネット、無料であってもしてはいけないとか、時間が何時間までとかってちゃんと約束をしてないとダメだと思います。

T: なるほど、すごい詳しい。あの一、RIさんの今の、子どもの側、ゆうたくん側の責任問題と、お母さん側の責任問題、2つ語ってくれました。ね。UKさんはどう思いますか？

UK 確かにRIちゃんみたいに、子どもが安心して使うようなものがよいと思うので、この母親がそういう設定をしてくれればあまり問題がなかったし、ゆうたくんもそういう風に気づいてくれれば、わたしは、母親に責任があると答えたんですけど、ゆうたくんもそういう、無料だからなんでもいいのかじゃなくて、そういう風に事件が起こらないようにするには子ども、YahooとかのYahooに入ればよかったんじゃないかと思います。

T: 最初はUKさんは、お母さんに責任が一番あると思ったんだけど、だんだん今の議論を聞いてて、いや待てよゆうたくんにも責任があるんじゃないか、そう思い始めたという話でしたけども、Sくんどう思いますか？

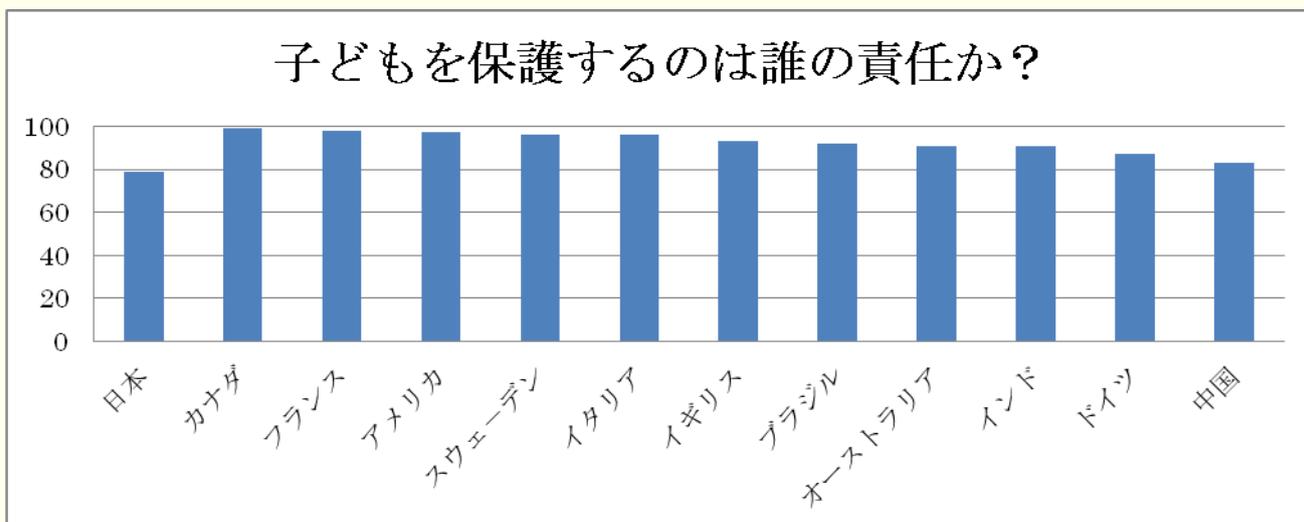
S:

T: どっちが責任があると思う？このトラブル

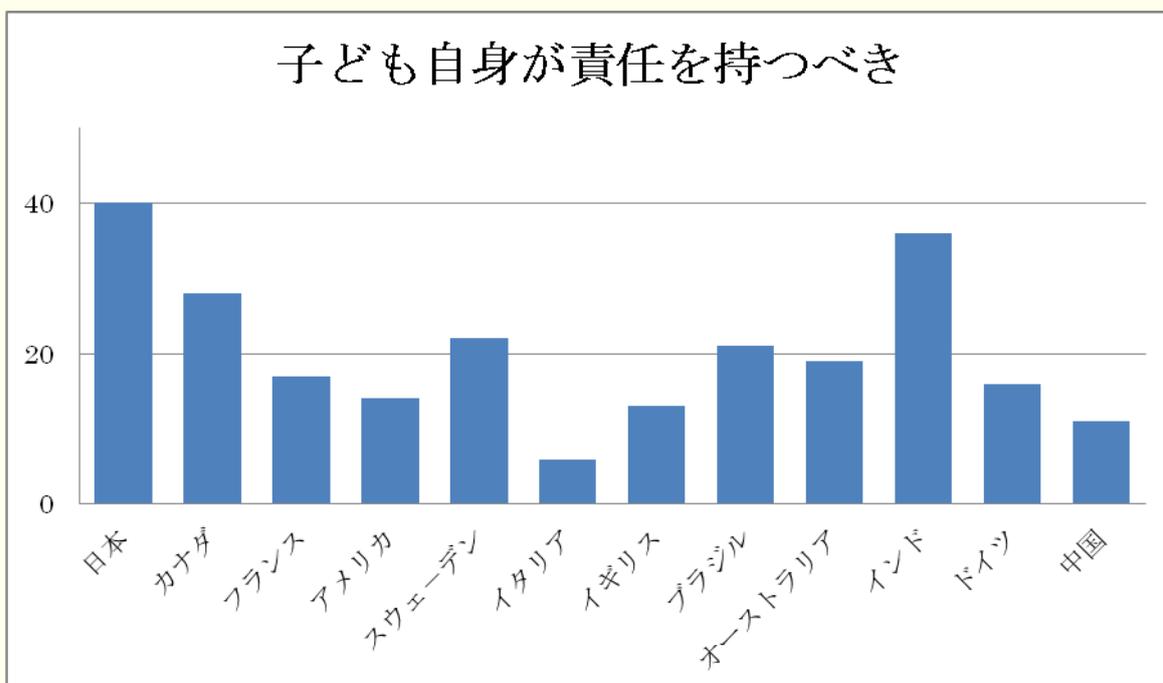
S: 母親が、そうなるのを覚悟しておいてのブロックしてくれるソフトなどをいれておくべきだったと思う

T: なるほど、お母さんが、えーとRUくんに、先ほど言ってくれたけども、あ、RUくんは渡したらだめだっけか、Jくんだね、渡してもいいんだけども、そういうことを想定して渡さなくてはならないんじゃないか、そういう話。それで、ここでね、このクラスでは、今のケースでは、お母さんの方に責任があるんじゃないか、という考え方多かったね。

(電子黒板でグラフを表示)



これちょっと見るとね、世界でとったデータなんだけど、今みたいにインターネットでトラブルに遭ったのは、誰が責任があるか？そういう質問なんです。そうすると、カナダ、フランス、イタリア、イギリス、ずーとあるけれども、だいたい90%以上は、保護者の責任だ、みんなが考えているように、ネットのトラブルは、実は保護者の責任だって回答している世界中の人が多いんですね。ところが、ちょっと気にならない、一番左わかる？日本の親、日本の保護者はね、実はそう思っていません。子どもに責任があるって思っている保護者はこんなデータなんです。日本の保護者は子どもに責任があるって一番思っているんです。世界で。次はどこだ？



S: インド

T: インドだね。でも、インドと比べても日本はずっと上。子どもであるみんなは、こういうことは親が責任があるんじゃないかと今、この教室では態勢を占めました。だけど、日本の親は実はそう思ってはいません。日本の親は子どもに責任がある。ね、そういう風にちょっと、日本の子どもと親ではまったく違う考え方にあるんです。

そこで、こんな法律が出された県もあります。条例というのは、その県だけで採用される法律、決まりです。石川県です。石川県ではね、こんな法律が制定されました。小中学生には携帯電話を持たせない。実際に、先ほどりゅうまくんが言ってくれたものが法律となって出された県があるんです。山形県はそうなってはいません。けれども、石川県では、石川県の小中学生には携帯電話を持たせない。もっと言うと、触らせない、そういうことを決めましょうと法律で決めたんです。さて、ここでも自分で考えて下さい。この法律、賛成だって言う人、反対だって言う人。どっちか。

(まわりに相談する児童がでる)

T: じゃあ、賛成だって言う人

(過半数以上)

T: 反対だって言う人

(2人、挙手)

T: お、二人だ。がんばらないとダメだ。

じゃあ、反対の理由ちょっと言ってもらおうか。はい。TAくん。

TA: んと、実際に、えーと携帯を持たせても、自分で気をつければ、そんなに危ないことではないし、気をつけなくともブロックとかすれば、多分、……

T: 小中学生が持たされても実際に気をつければ、ブロックみたいな設定をすれば大丈夫、持たせていいんだというのがTAくんの主張ですよ。反論

MIが挙手

T: はい、MIさん

MI: そのブロックの解き方とかわかつちゃったら、あっという間に解かれて、その……みたいのが使えるようになったりするから。

T: なるほど、そのブロックの設定を子どもの方で解除の仕方をわかってしまえば、あのーそういう怪しいサイトに入っちゃうんじゃないかというのがMIさんの考えなんだけど、どう他に。Sくん、君はあれだったね。反対だったねこの法律。

S: わかっても何十にもキーを重ねれば……

T: 何を重ねる?

S: 解除キーっていうか、暗唱キーっていうか、何十にもすれば時間はかかると思う

T: なるほど、そんなに簡単に暗唱キーを、簡単にしなければ子どもは解除できないというのがSの考え方。だから、小中学生に携帯電話を渡しても大丈夫だ。RIさん。

RI: そんな怪しいサイトに入るっていうことは、自分で意識すれば守れるけど、んと一さっきのビデオみたいに、ウイルスとか送られてきたり、この間も遠隔操作ウイルスもかなり協

力だったってテレビでいってましたし、それ一自分で気をつけていてもウイルスに防御できるのかって問題があるので、私は子どもには持たせないというのがいいと思います。

T：ずいぶんふくれてきた。はい YU くん

YU：僕は賛成の方にやったんですけど、ちょっと微妙なんですけど、携帯電話でなくて固定電話にすればいいんじゃないかと思います。

T：なぜ？

YU：そうすると、メールとかできないし、電話しかできないから、固定電話が一番いいと思いました。

T：携帯電話は家には必要ない

YU：固定電話あれば

T：固定電話さえあれば。固定電話ってわかる？家の線につながっている電話ね。あれあれば携帯電話そのものいらんんじゃない。というのが YU くんの考え方ですけど、どう思いますか？はい、TA くん

TA：どこか出かけているとき、固定電話って意味ないんじゃないかなと思います。

T：携帯じゃねーじゃないかという話だ。どう思いますか？YU くん

YU：でも、でかけるといったって、親が電話するのは夕方くらいだと思う。夕方、何時くらいに電話するって決めておけば、その時間に帰ってくれば間に合うと思うので、固定電話でもいいと思う。

T：固定電話でもやれるんだ。昔はみんな固定電話だった。さあどう？S くん。

S：今になっていると、電話のみできる例えばソフトバンクでボタン押すだけで、メールじゃなくて電話のみできる、必要最低限の・・・

T：あ、さっき RI さんがいったやつかな。KIDS なんかというやつかな、もしくはわじいちゃん、ばあちゃん持つやつかな。

ま、最低限のものしか持たせないっていうルールでいいんじゃないかということだけど、どう？YUMI さんどうぞ。あなたの考え。

YUMI：最低限、んー持たせるというのは私も賛成だと思うけど、んー・・・んー確かになんか最近では、そういうソフトもできているし、でも・・・、話変わっちゃうけど

T：いいよ

YUMI：わたしは、あの、さっきメールとかでブロックすればいいとあって、そういう話もでたけど、今ではそういうのって携帯の中にあるけど、自分で変えられるような、変えられることができるような、設定みたいのがあって、私も DS とかで、インターネットとかしていることあるけど、そういうので簡単にわたしとかでもわかっちゃうように、設定とかで簡単に暗証番号を変えられるとか、そういうところが出てきちゃうところがあるので、固定電話もいいかもしれないけど、固定電話はもし、ちいちゃい子は風邪ひいたとか、お父さんとかお母さんがでかけているときに、風邪ひいたとかなったときに、固定電話そのものを持ち

出すのも（笑）大変だから、固定電話はやっぱり反対かなって思います。

T：それじゃあ、ちょっとね、YUMIさん、そのブロックとかなんとかって、もし外せるとしても、おうちの人から外してもいいよって言われているのかな？

YUMI：わたしは、外してはダメだって、言われているし

T：そうだね、そういうのをフィルタリングっていうんだけど、そういうフィルタリングソフトを多分家の方は、さきほど、Jくんあたりかな？RIさんも、設定、家の方が設定しないからダメなんだ、いう話があった。だけど、それを解除できるじゃんという、そういう話になったね。でも、YUMIさんの家はまれじゃなくて、多分、家の方は解除してはダメだっていうと思うんですよ。解除してはダメなのに、なんで解除するの？そこ、どう思うかな？んと、TAIくん。まちがえた、TAくん。ごめん。

TAくんどう思う？君は解除する？

TA：んと一解除・・・

T：もし、ブロックというソフトがあって、解除の仕方がわかった。キーがわかったとなったらどうする？

TA：必要になったら解除するけど、そうでなければそのまま

T：解除する、知らないふりをする、とつても真剣で、とつてもあの素直な意見だ。どう思いますか？うなずいているね、Sくんもね。どうだ、RUくんは。

RU、首かしげる

YUが挙手

T：はい、YUくん

YU：多分、ブロックわかっちゃえば多分、今だと、なんか経験とかないから、多分TAくんみたいな答えだと思うんですけど、もし、そういうのあったら、多分やっちゃうと思うから、経験がないから・・・

T：なるほど、僕には経験がないけど、だけど解除する手段、暗号を手に入れたら、多分僕は解除するだろう。正直な話だ、親からはやっちゃだめって言われるのに、解除してしまうのはなぜですか？Jくん。

J：んと一家ではダメだとかっていわれているけど、自分ではやりたいとか、心の中では思っているから、それをやってしまうと思う。

T：んー親からはやってはダメだって言われても、やりたいという気持ちがあるからやってしまうじゃんっていうのが、Jくんの素直の感じだ。Rくんどう思う？

R：僕もJくんと同じで、お母さんからやっちゃだめって言われても、自分でやっちゃうかもしれないから、だから反対です。

T：だから反対だ。あの一MAさん。

MA：んと一解除したい人は、やったらどうなるだろうと欲望があるから、やっちゃうんで、私はそういう危険なことは好きじゃないから、調べたりしなくて、そのまま素直に親から言われたことをやって、問題毎をおこさないように・・・んと、そういう鍵がわかったら、私は

解除しないと思う。

T:なるほど、MAさんは欲望があるから解除する人はいるだろう、でも私は解除しないよ、
けどそういう人もいるだろうというMAさんの考えだけど、どうですか？他に意見がある人。

ほのか挙手

T:はい、HOさん

HO:はい、携帯と同じく、テレビでHDDのメニューに録画した番組を入れてて、その録画した番組に行くやり方を見つけてしまって、すごいみたい番組があって、映画なんですけど、それで、なんていうだろう、やめられなくて、いつも見ちゃったんですけど、それと同じように、携帯も、同じく何て言うんだろう、行ってしまう人も多いと思うので、預けない方がいいと思います。

T:ありがとう。HOさんの正直なはなしだね。なんか自分でやる方法を見つけたときに、さっきMAさんが言った欲望に負けてしまって、そればかり見ちゃうようになったんだ。ということで、やっぱり預けない方がいいのかな。石川県は間違いなしかな。山形にも作るべきか。

(なんかはっきりしない様子)

T:っていうのを、

みちかが挙手

T:はいMIさん

MI:でも、持たせないのは賛成は賛成だけど、さっき触らせないとでもちゃったから、でも、触らせないまでなくてもいいと思う。

T:どうして？

MI:んとー、もしも、お母さんが持っているゲームのなかで無料のやつがあって、前一回やってしまつてとても、楽しかったら、もう一回やりたいという感じになって、またやったら止められなくなった・・・

MI:それでも、別に小中学生に持たせないというのは決めなくてもよい？

MI:持たせないのは決めていいけど



T:決めていい

MI:さわらせないまではいかない

T:触らせないまでは決めなくてもいい。あと、意見ありますか？そろそろ終わり・・・

RI が挙手

T：はい、RI さん

RI：わたしも、MI ちゃんの意見賛成で、持たせないというのはいいけど、触らせないというまではいかない方がいいと思います。理由は：触らせないというのは、親の携帯とか使う場合で、その使う場合は親は近くにるときとかだから、別に親が危ないからこういうところは止めなさいと注意してあげれば、大丈夫だと思います。

T：なるほど、触らせないまではやる必要がないじゃないかいうことですが、他にありますか？

T：はい、A さん、HA さん、ごめんなさい。

HA さん：わたしは、触らせないまではいかなくてもいいと思います。理由は、わたしも、家の人携帯でゲームとかしているんですけど、お金がかかるところはどこか教えてもらって、それに入らないようにしたり、ゲームは、携帯に入れてもらったものだけをやるようにしたりすると、そういう余計なことまではしなくなるので、触らせないまではルールを決めればやらなくてもいいと思います。

T：ありがとう。やっぱり中学校の先生だから、ちょっと（時間が）足りなかった。もう 1 個、みんなに聞きたいんです。

じゃあ、こんどみんな中学生になるはずなんだ。校長先生が GO サイン出してくれれば。
(笑)

T：ね、そこはわかんないけど、これから、健全で健康な M 中学生になるとしたら、必要な力はなんだと思いますか？ちょっと考えて。ね、ちょっと今までの話より、ぼんと上に上がるけど、健全で健康な中学生、M 中学生になるは、M 中学生とは限らないけど、中学生になるには、どんな力が必要だと思いますか？さ、聞こう、最後。答えたい人？

YU 挙手

T：はい、YU くん

YU：判断力。

T：おー具体的に

YU：具体的に？怪しげなサイトに入らないとか、ブロックの暗証がわかっても、多分やらないと思うから判断力

T：YU くんは判断力といった。あとは？

SE 挙手。

T：はい、ごめん、SE さん。



SE：んとーわたしも YU くんと同じで判断力が必要だと思います。理由は、お金がかかる
とわかってお母さんに、メールが来たときもどうした判断すればいいか行動したい・・・

T：判断力があればすばらしい生活、中学校生活が送れるんだっていう二人の意見がでた。

MA さんに聞きたい。どうですか？あなたは思う？

MA：んとー、やっぱり、さっきみたいにゲームをやらないとか、ブロックを解除しないと
かそういうの全部判断力に関係しているから、判断力が大切だと思います。

T：やっぱり判断力だ、最後、S くん、どうですか、どんな力があると、楽しい中学校生活
が送れると思う？

S：やっぱり判断力あると思うんですけど、注意力も必要だと思います。

T：おお、注意力。どういう注意力。

S：判断力に似ているんですけど、ここはダメだとか・・・

T：ありがとう。もっともっとみんなには、発言してもらいたかったけど、今出てきた判断
力や注意力。最初は怪しいサイトは入らなければトラブルに巻き込まれないんだというみ
んなの意見からスタートして、まてよ、それは親の問題じゃないのか、子どもの問題じゃな
いのかと議論してもらいました。そしたら、日本人の親は実は子どもの問題だって思ってい
るし、君たち日本人の子どもは親の問題じゃんって思っているっていうことがわかりまし
た。その後、本当に必要な力は何なんだろうか、持たせないと言うことなのか、いや持って
もそういうことしないっていうのが問題なのかって議論してもらいました。そして最後に、
来年、来年度中学生になる君たちはどんな力を高めなくてはいけないのか、そこの結論に至
りました。それが判断力が注意力だっていう考えになりました。ありがとう。



ありがとうございました。



[戻る](#)